

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500078		
法人名	医療法人 みずほ会		
事業所名	グループホーム なかとさ		
所在地	高岡郡中土佐町上ノ加江706-1		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園地帯にある静かな環境であり、地元の方の散歩コースとなっている為、施設周りにボランティアの方々が花を植えてくださり散歩中の方がきれいですねと立ち寄ってくださいます。いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう心がけています。出来るだけ花を絶やさないように気をつけています。独居の方の見守りや地域包括支援センターや居宅介護サービス事業所等とも連携を図っています。地域の行事には積極的に出かけて行き交流を図っています。困ったことがあればグループホームに相談しようかと言ってもらえるよう頑張っていきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3992500078-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年2月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は昨年より地域貢献を理念に加え、管理者が地域の独居高齢者の居宅を訪問し、話し相手や相談事に応じる取り組みを始めている。地域の行事には利用者全員で参加し、事業所の秋祭りには地域住民100名ほどの参加がある。保育園児や小中学生とは互いに行き来する関係ができており、交流が定着している。運営推進会議においても、高齢者と同居する事が少ない現況にあつて園児や生徒との交流は大切な機会であると評価されている。事業所は、こうした地域との付き合いと運営推進会議が一体となってより一層地域に開かれた事業所となることを目指している。職員は、一人ひとりの利用者に応じたケアが出来る事や家族のように関わられることを楽しみ、利用者の笑顔や感謝の言葉にやりがいを感じている。食事は利用者のペースに合わせて、一口ごとに嚥下を確認し、間を見極め語りかけながら介助をしている。利用者の表情は穏やかであり、職員と利用者の信頼関係が築かれている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	なかとさの理念として入居者が安心してゆったり自由に自分らしく暮らして行けるように努めている。地元へ溶け込んで地域の方々と一緒に暮らしていける、いつでも地域の方に立ち寄ってもらえるような施設を作りたいと、常にスタッフ会で理念を振り返りサービスに繋げている。年頭には年間目標を決め取り組んでいる。	自分らしく安心して生活できる場の提供と地域交流、地域貢献を大切にしたい理念を掲げ、毎月の職員会で唱和するとともに、利用者ができる事や希望等を日々把握して実践につなげている。また、地域貢献として独居高齢者宅を毎月訪問することに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月に1～2回3軒の喫茶店にモーニングに出かけたり、小、中学校、保育園の運動会に案内状を頂き見学に出かけている。地域の敬老会や地区民運動会、盆踊り等にも参加させていただいている。また中学校、保育園とは年2回小学校とも年1回の交流を施設内で行っている。地元婦人会の方々によるボランティア(周辺の環境整備や花植え)や野菜の差し入れもあり新鮮な野菜を食卓に提供できている。	職員は地域の一斉清掃に参加し、地区民運動会や敬老会、盆踊り等には利用者と共に参加している。保育所や小中学校とは互いに行き来する交流が出来ており、事業所の秋祭りにはボランティアや多くの住民が参加している。今年度から、管理者が地域の独居高齢者宅を訪問し、話し相手や相談事に応じる等、地域貢献に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回程度ではあるが管理者が地域の独居の方々の家庭に訪問し、相談に乗ったり話し相手になったりしている。独居で動けなくなった方が居られ親類の方から連絡を受け訪問し、行政に連絡し病院に搬送した事もある。また最後まで関わりその方は施設入所された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	看取り介護を実践して、経過報告を行ってきた。看取りの経験のない職員が大半の中、職員全員で研修や話し合いを重ね家族様にも喜んでいただける介護が出来た。主治医にもよい経験をしましたねと嬉しい言葉をかけて頂いた。運営推進会議にも議題としてあげて取り組んだ。	事業所から活動報告等を行い、委員より事業所の地域交流への評価や運営に関する率直な意見等が出され、活発な会議となっている。外部評価結果の報告は行っているが、評価に関する共通理解が課題となっている。会議録は委員へ送付し、閲覧に供している。	評価制度のパンフレットを活用して委員の共通理解を深め、評価後に「サービス評価の実施と活用状況」の様式による振り返り等に取り組むことと併せ、会議録の全家族への配付も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の地域包括支援センターや福祉保健課の方々には運営推進委員として参加していただいている。管理者が訪問先で困った方があれば地域包括支援センターに連絡を入れたり、町役場のほうからも認知症施設の見学は可能かとの問い合わせがありいつでも気軽に来ていただきたいとお話している。	運営推進会議や各種報告の機会に事業所の実情を伝えるとともに、運営上の疑問や問題が生じれば役場に出向き担当職員に相談しており、協力関係は維持できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修を行い、研修内容は職員間で話し合い実践している。言葉の暴力も虐待に値するため常に意識し注意している。日中は基本、施錠はしていない為自由に外に出られる環境にある。外出願望の強い方も居られるため頻りに外に出られるときには散歩やドライブに出かけるようにしている。	職員が交替で研修に参加し、身体拘束の行為やその弊害を理解している。職員の言葉による抑制があれば、その都度注意し合っている。外出傾向のある利用者には、庭先での行動は見守り、車道に出る時は同行する等地域住民の協力も得ながら拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加し職員間で話し合い、どのようなことが虐待になるのか常に意識を持って介護に当たるように努めている。また法人内の不適切ケア事例等も持ち帰り、職員間で話し合いこの様なことの無いよう努めている。虐待と見られる場合にはすぐに報告できる体制にある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利や擁護、成年後見制度については法人内研修で理解している。必要に応じて関連機関との連携を図りながら支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用契約書、各同意書等書面に基づき十分な説明を行っている。改訂時には書面や電話連絡で説明を行い、理解をいただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。またご家族の面会時にはお気づきの点はないか、改善していくことは無いか問いかけている。また電話で意見を求めることもある。年2回の家族交流会にも家族のみで話し合いを持って頂き、その場の話を全体の会で話し合っていた。また利用者、家族、職員と一緒に施設内で食事をしながら普段の利用者の状態が理解できたと言われる家族さんもおられた。	利用者にはいつでも希望を聞いたり、表情や仕草等から汲み取ってケアに活かしている。家族には面会や電話で直接聞いたり、年2回の家族同士の話し合いの場を設けている。また、外部の窓口があることも契約時に説明している。意見等があればマニュアルに沿って対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度サブリーダー会、スタッフ会を開き職員からの意見や提案を聞き、ケアや業務に反映している。また日々の業務の中で意見のある時には主任や管理者に提案し、その都度話し合い業務に生かしている。	サブリーダー会やスタッフ会のほか日々職員から提案を受け、利用者の創作活動への取り組みや肥満対策等に反映した事例がある。職員は、レクリエーションや食材等担当業務について主体的に意見を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り、笑いが集う家を目指している。職員同士も助け合い、声掛けの出来る職場となっている。勤労者には職場からの推薦で勤労表彰があり勤労意欲につながるものと思う。また正職員への起用制度もあり契約社員から正職員に起用されることがある。資格取得すれば受験費用は全額法人が負担してくれる制度もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が自主的に参加したい研修には、法人にとって必要であれば費用等も考慮し研修に参加しやすい体制を整えている。当施設の職員は開設当初からの職員が大半で研修も多く受けている。新人は入職時新人研修カリキュラムに応じて指導している。各利用者に応じたケアを職員間で共有し実践に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームや特別養護老人ホーム、居宅介護サービス事業所等に出向いたり電話連絡をし情報を交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前及び入居後にもコミュニケーションを図り日々の会話の中から、本人の困っていること、不安なことを聞き出し安心して生活できるよう良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接時の段階から困っていること、不安なことを聞き出し、安心して生活できるようにし信頼関係を築いていくようにしている。プラン変更時にも面接や困難などときには電話連絡をし意見を聴きプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や状態からご家族の状況を理解し、施設として何が出来るのかを見極めて他のサービスが必要な場合には利用できるよう調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は職場を家と考えて、家族の一員として言葉掛けにも配慮し、アットホームな雰囲気を大切にし、お互い助け合い共に生活できるように本人が出来ることはお願いして共に暮らしていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	私たち職員は、入居者さまからお給料を頂いていることをいつも念頭に置いている。ご家族さまにも気を使わず、何でも話していただける雰囲気を作りご家族様が来所しやすい施設となるよう努力している。遠方のご家族様以外はよく面会がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での行事には、地域の馴染みの方々に来ていただき、踊りや歌を披露していただいたり、散歩の途中の方が立ち寄って一緒にお茶をいただいたりという良い関係が築かれている。また住み慣れた場所にドライブに出かけたりしている。	馴染みの人や場所に関する情報は、本人や家族、入居前の事業所職員等から得て把握している。家族の協力も得ながら、自宅や墓参りに行ったり、親族のいる店や施設に出向いて面会するなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で嫌がることは極力避けて、よい関わり合いが持てるよう支援している。言葉掛けにも個々に変化をもたせ個々に応じた声掛けを行い、楽しく暮らしていけるような関係を作れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には関係者に状況、習慣、これまでの状態やケア内容を提供し、本人や家族の不安軽減に努めている。またその他の状態でも家族さまとの関係を絶たぬよう、年始の挨拶や行事の案内状を遅らせていただき関係作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴願望の強い方には、隔日の入浴を実施している。食事内容も、食べたいものを聞いたり、一緒に買い物に出かけたりしている。出来る限り本人の希望に沿えるよう職員間で検討している。	日々のケアの中で思いを聞いたり、表情や仕草等から汲み取ってケアに活かしている。利用者の行為の背景にある感情や思いを察知し、時には家族の協力も得て対応する等利用者本位に支援している。しかし、毎月のケアの評価や日々の介護記録等には利用者の思いの記録が少ない。	日々の出来事や介護者の関わりに対する利用者の反応、利用者その時々々の思いや様々な感情、願い等を記録に残す取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には本人やご家族、担当ケアマネジャー、デイサービスから、生活歴や趣味、嗜好等の把握に努めている。またご家族とも話しやすい関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の出来ること(折り紙、ちぎりえ、塗り絵等)があれば個別で取り組んでいる。その日の状態を把握し、その人らしい過ごし方をしていただけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の月末評価、3ヶ月に1度のモニタリングを行い、サービス内容、短期目標、ニーズなどの再検討をし、その都度、本人家族に要望や意見を聞きプラン作成し、説明をし同意を得るようにしている。	利用者、家族、他職種等の情報を基にカンファレンスを行い、本人の思いや希望、地域に馴染む為の取り組み等を重視して計画を作成している。日々実施記録を取り、毎月担当職員が評価し、3カ月毎にモニタリング及び計画の見直しを行っている。変化があれば随時計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録にて日々の様子や介護計画の実践状況を記録し、介護スケジュール表にてバイタル、排泄、食事、水分量も記入している。日々の申し送りは申し送りノートや業務日誌にて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況に応じて受診援助や帰宅援助、買い物等柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が花植えボランティアや草刈をしてくださり環境整備に協力を得ている。また季節の行事には、学校、駐在さん、地域住民、運営推進委員の方が来て下さり、地域の行事にはこちらから参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の確認を行い、施設では往診体制で受診、薬は薬剤師が薬局より配達、支払いは職員が対応していることを伝え、本人、家族に選択していただいている。歯科等は協力医療機関にて往診、受診を行っている。	入居時に事業所の医療連携を説明し、希望するかかりつけ医による受診支援を行っている。協力医は月2回往診を行い、その結果は家族に書面で報告している。専門医の受診は、基本的に家族に依頼し、必要な情報は口頭や書面で家族に伝えている。受診結果は申し送りノートで共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の悪化があれば看護師と24時間連絡が取れる体制にある。週1回の訪問看護を受け書面や口頭で相談し適切な対応、助言を得ている。管理者が看護師でもあり、職員の不安の軽減にも繋がり対応がスムーズに出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には本人の情報を提供している。またケースワーカーにもその都度面会し、情報を得て安心して治療できるよう支援している。ご家族とも連絡を密にし症状の把握に努めている。入院中には出来る限り職員も面会に行き状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、家族交流会や面会時に折を見て話し合っている。終末期を迎えた場合の職員のケアの内容も職員全員で話し合い、その人にとって一番よいと思われる方法でその人の望む生活が送れるように家族や関係者と方針を共有し取り組んでいる。	入居時に「重度化及び看取りに関する指針」に沿って説明し、重度化した時は医師より家族に説明して話し合い、看取りに関する同意書ももらっている。協力医や訪問看護は24時間体制であり、介護職員の不安軽減にも努め万全を尽くして看取った経験も有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が高齢のため、突発的な急変はいつ起こってもおかしくない状況である。あわてずに管理者や看護師、医師に連絡し消防署に連絡したときには消防隊の支持に従うよう指導している。人工呼吸等の訓練も受けているので、1年ほど前の急変時には救急隊が来るまで指示どおりに人工呼吸が出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地域の住民の方にも協力を頂いている(年2回行っている)避難訓練も実施(夜間想定)し避難目的地まで時速30kmで車で走行し、地震の揺れが収まり脱出まで含めて14分でいけた。この様な訓練を積み重ねて30年以内に起こりうると思われる南海地震に備えたい。	防火訓練は消防署や住民1~2名の協力を得て実施している。地震想定訓練は事業所独自で実施し、乗用車による避難を行い課題を検討しながら訓練を重ねる予定である。消火器等の設備点検は定期的に行い、食糧等の備蓄は避難場所に近い職員宅に7日分を目安に確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新規入居者様には事前にアセスメントをした内容を共有している。入居後は、日常の生活の中で、人格を理解し尊重して職員間で話し合い徹底できるよう努めている。	利用者を年長者として敬う基本姿勢を徹底している。排泄の誘導等羞恥心を伴う介護場面では、他に分からない声かけを工夫している。プライバシー確保のため顔写真の掲示は事前に同意を得ており、利用者の個人情報他者に聞かれないよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が何でも言えるような信頼関係を築くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間は個々により異なるため、朝食は時間が決まっていない。起床が遅いときでも水分補給には気をつけて促していく。個々のペースによって、午後はベッドで臥床する方も居られる。無理強いせず本人の希望に沿ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様の持ってきていただいた物を着用しているが、古くなれば、家族に連絡し購入するか、あるものを持ってきていただいている。理美容は月に1回来訪していただけるので、家族の了承を得ている方は定期的にお願している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材担当者は3名配置している。3人で連携して食事が偏らないよう注意している。また最近では利用者様が太り気味傾向にあるため、カロリーコントロールをしている。新鮮な食材を提供できるよう担当者が自ら買い物をしてきたりしている。利用者と共に食材を選ぶこともある。利用者には出来ることを手伝っていただいている。	献立は食材担当の職員が利用者の好みや行事等を考慮して作成している。食材は一括購入し、不足分は利用者と一緒に買い物に出かけている。利用者は野菜の下ごしらえや食卓の準備から後片付けまで可能なことに参加し、職員は同じ食卓を囲んで一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々により異なるが、個々に応じた食事量を決めている(医師に相談)水分量は最低1000mlを目指している。体重の増減、体調等を考慮したうえで全体を通して支援できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを促している。本人が出来るところはお願いしながら不十分なところは介助し、ガーゼの対応も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で出来るよう日中は極力トイレで排泄を支援している。排泄の訴えない方にも定期的に声掛けを行いトイレでの排泄ができています。夜間はポータブルを使用している方もおられる。自立している方も失禁が多く、オムツ使用は必要となっている方が多い。	利用者の排泄パターンやサインを把握し、トイレでの排泄を支援している。夜間も、ポータブルトイレも含めトイレでの排泄を支援している。排泄用品は、失禁量に応じ最低限使用するよう検討し、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜やヨーグルト等を摂取していただき、水分量もなるべく多く摂っていただくようにその都度声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	3日に1度のペースで行っているが毎日入浴したい方にはその都度声かけをし、柔軟に対応している。嫌がる時には無理強いせず日程を変更している。	湯沸し機の容量上、1日3～4名の入浴になるが、少なくとも3日に1回は入浴できるように取り組み、可能な限り希望に応じるようにしている。入浴を嫌がる利用者には声掛けの工夫や入浴日を変更する等個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	新しくソファを購入し配置を変え家のリビングでくつろげるように過ごしていただいている。日中でも居室で休まれる方も居られる。夜間は巡視を行い、その時の状況に応じて訪室し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にてチェックを行い、職員間で確認し、本人の名前を確認し隔日に服用できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方が多いので午後はテレビで歌番組を鑑賞したり塗り絵や折り紙をしてすごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	モーニング、外出、外食など季節ごとの花見(桜、アジサイ、コスモス、利くなど)地域の行事にも参加させて頂いている。	気候のよい時期には午前と午後に各1時間程度の外出支援を行い、事業所周辺を交替で散歩したり、買い物や喫茶店等に個別に出かけている。また、毎月1回は行楽や地域行事等に全利用者で外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了解のもと、管理者が預かっている。お金がない、取られた等トラブルが発生したため、現金は本人には持たせていない。必要時には管理者が個々の預かり金の中から出している。使途については毎月小遣い帳と領収書を家族に送付している。残金が少なくなればお願いし入金していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度家族に連絡したいときには連絡を取っている。家族より贈り物などがあれば、届いたことをすぐに連絡している。年賀状も準備していたが出したいと言われる方がいなかった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁面は季節ごとに飾りを変え、季節感を味わえる空間を作っている。玄関には花や置物を飾り、入ってきた方の印象を悪くさせないように工夫している。テレビを囲んでソファを配置し、居心地のよいホールを作っている。いつもどうすれば皆さんが居心地よく過ごせるか考えてレイアウトしている。	食堂兼居間には道路に面した広い窓があり、開放的な空間になっている。壁面には利用者が作成した季節行事の飾り物を掛けたり、四季に応じた生け花等で季節感を採り入れ、団欒できるようにソファを配置するなど利用者が居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にパイプ椅子や長いすを置き、暖かいときには仲良く外の景色を眺めながら話し合っている姿がほほえましい。ソファを購入したことで全員が座ることが出来るようになり、それぞれが思い思いの場所でテレビを見たり、新聞を見たりして楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が選んで持ってきていただいた物を使用し、家族写真や花などを飾り工夫している。本人にとって居心地のよい空間なのかはわからない。	居室の入り口には利用者の干支の置物を飾っている。居室には、椅子、タンス、置時計、小物入れ、家族や愛犬の写真、自作の作品の掲示等、利用者一人ひとりのこれまでの暮らしを感じさせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせシルバーカーなどを使用し、安全に自立できるよう支援している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない